

## わが国における若年労働力の雇用状況と就業形態の動向 — 『就業構造基本調査』のマイクロデータによる実証分析—

日本学術振興会特別研究員 伊藤 伸介†

### 報告要旨

近年、わが国の労働市場においては、若年層・壮年層を中心に、アルバイト、パートタイマー、派遣社員といった非正規の労働力が急増することによって、就業形態の多様化が一層進展している。そこで、本稿は、『就業構造基本調査』(平成4年、9年、14年)のマイクロデータによる実証分析によって、わが国における若年層の雇用状況と就業形態の動向を考察した。

本稿では、第1に、『就業構造基本調査』のマイクロデータにかんする特性に注目し、世帯構成員レベルでのデータ・マッチングを試みることによって、若年層を対象に「親の学歴階層つきマイクロデータ」を作成する。第2に、若年労働力の社会経済的属性(年齢、性、学歴、前職の有無等)についてマイクロデータによる再集計をおこなうことによって、労働力の雇用状況と就業形態にかんする基本的な特徴を確認する。そして、第3に、世帯属性(世帯構成、親の学歴階層等)および企業経済的属性(産業、従業者規模等)をモデル変数とする2項ロジットモデルを設定し、マイクロデータ分析を試みている。モデル分析では、①就業主体の転業行動による非正規雇用化の可能性、②親の高学歴が同居する子弟の不安定就業化に及ぼす影響、③企業属性をコントロールした状況における個別的主体群の社会的属性と就業形態との関連性等について、興味深い分析結果が得られている。それによって、若年労働力がキャリア志向的な正規雇用者と浮動的な就業傾向を有する非正規雇用者に二分化され、労働市場がセグメント化される可能性が導き出されている。

キーワード：マイクロデータ分析、若年労働市場、親の学歴階層つきマイクロデータ、ロジットモデル

### <謝辞>

本研究において使用した「就業構造基本調査」のマイクロデータは、独立行政法人日本学術振興会の平成16年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の交付を受けて、マイクロ統計データ活用研究会(代表：井出満大阪産業大学経済学部客員教授)が作成された「マイクロ統計データベース」のデータ(就業構造基本調査のリサンプリング・データ)である。

本研究遂行のため、マイクロ統計データベースの使用に当たっては、総務省の「就業構造基本調査」の目的外使用申請による調査票の使用許可を受けている。

総務省統計局及び独立行政法人統計センターの関係各位並びにマイクロ統計データ活用研究会事務局の方々には多大なお世話をいただいた。記して謝意を表する。

---

† 連絡先：194-0298 東京都町田市相原 4342 法政大学日本統計研究所  
E-mail:ssitoh@mbp.nifty.com